

37. 人権尊重のまちづくり

人権とは「人が自分らしく生きる権利」「生まれながらにだれもが持っている権利」のこと。言いかえると「だれもの命が大切にされる」「みんなと仲良くする」ことです。

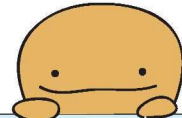
年齢や性別、国籍、民族、障がい、病気、外見や容姿、住んでいる所、職業、家柄、考え方が違っていても、大切にされる「あなた」、仲良くする「あなた」が「人権尊重のまち」を実現していくのです。

1. 人権尊重のまち

名張市は、1991（平成3）年に「人権尊重都市」宣言をしました。1995（平成7）年には「名張市における部落差別をはじめあらゆる差別の撤廃に関する条例」を制定し、人権と共生を大切に「人権尊重都市名張市」をめざしてさまざまな取り組みをしてきました。

しかし、2000（平成12）年に実施された「人権に関する市民意識調査」では、依然としてさまざまな差別や人権侵害が存在していることが明らかになりました。これらの課題を解決するために、2003（平成15）年に「名張市人権施策基本方針」、2004（平成16）年に「基本計画」を策定し、学校や職場での人権教育だけでなく、多くの市民が参加できる行事や人権作品の公募、街頭での啓発、人権相談の充実等の取り組みを行い、人権意識の高まりを図っています。

人権は大人だけの問題ではありません。子どもにとっても大切なことです。そこで、名張市では、2006（平成18）年に「名張市子ども条例」を制定し、いじめや児童虐待など、子どもの権利侵害からの救済及びその回復を明記しています。



三重県では初めて、名張市が子ども条例を作ったよ。この条例では「生きる権利」「育まれる権利」「守られる権利」「参加する権利」という4つの権利が保障されていて、子どもも大人も全ての人が幸せに生活できるまちづくりをめざしているんだ。もしも困ったことがあったら「ばりっ子ホットライン」へ電話してね。

0800-200-3218（お金はかかりません。）

このように名張市は人権尊重のまちをめざし、さまざまな条例や施策を整備してきました。

同じく人権問題に取り組んでいる民間団体やNPO団体、ボランティアの果たしてきた役割も大きなものがあります。制度や施策などを実行していくのは一人ひとりの「ひと」の力です。

2016（平成28）年に実施された「人権についての名張市民意識調査」では、名張市民の人権問題への関心が、内閣府が実施した全国調査の結果より高くなっています。この関心の高さを人権尊重のまちづくりにつなげ、これからはすべての人たちの人権が尊重されることをめざします。

2. 人権尊重のまちをめざす拠点

(1) 比奈知文化センターと一ノ井市民センター

名張市には、人権・同和問題の解決、地域住民の生活の改善及び福祉の向上を図ることを目的として、市の施設の児童館、教育集会所をはじめ、関係機関や団体等とつながりながら、福祉と人権のまちづくりの拠点施設となる2つのセンターがあります。

ここでは、困りごとなどに対する相談、教養・文化を高める研修会や行事、仲間意識を高めるサークル活動などを行っています。また、子ども会等の集団活動を通じて、自主性・責任感・協調性・人権意識等を身につけ、友情をはぐくみ、連帯意識をつちかう生活指導や、部落差別をはじめさまざまな人権問題に対する理解と認識を深めるためのサポート事業として、住民、教職員、行政職員などを対象に人権学習会などを行っています。

比奈知文化センター

名張市内の多くの小学生が、総合的な学習の時間等を利用して、人権の学習をするためにこのセンターを訪れています。入口駐車場に並んでいる植木は、みんなが笑顔になるようにと剪定されていて、「にこにこ顔」で出迎えてくれます。

子どもたちは館内ウォークラリーなどの活動を通して施設の歴史や目的、役割、取り組みを学びます。特に「識字教室」の活動で生まれた「人権カルタ」の学習は、その思いや願いに触れ、自分の人権意識を掘り起こし、そのことをきっかけに自分のことや友達のこと、クラスのことなど、仲間づくりにつながる学習として発展していきます。

子どもたちの学習に寄りそってきた職員は、仲間づくりや人権尊重への願いを次のように話しました。



比奈知文化センターの植木
比奈知文化センターでの「人権カルタ」の学習

いやな思いをしたことやさせてしまったことを自分が振り返る中で、カルタの文字や絵を通して願いや思いを知り、言葉の優しさに共感していく。「人権カルタ」の学習は自分や周囲を大切に思う「なかまづくり」の学びだということを忘れないで。今、あなたは大切にしていますか？ じぶんのこと、相手のこと。



世界中のどこを探しても同じ人間はいません。それぞれが持っているものは違っているし、それは当然のことです。その当たり前がだれにも侵されることのない社会をと、そう願う一人ひとりの思いをつなぎ、だれもが安心して暮らせる社会をつくるためにできることは何か、考えてほしい。

一ノ井市民センター

一ノ井市民センターでは、児童館や教育集会所で、保育園児や小中学生が、差別やいじめを見抜き、なくすための活動をしています。児童館を訪問すると、館内ウォークラリーをしながら人権について学ぶことができます。児童館の窓には、子ども会活動の一つとして取り組んだ心温まるメッセージが、一面に描かれています。また、館内には、子ども会が取り組んだ作品が展示されていたり、キャラクターを探すゲームがあったりします。



一ノ井児童館での活動の様子

児童館での活動を通して、共感し、協働する楽しさ、人権の大切さを学ぶことができます。人権に関する4コマ漫画の作者である職員や、ともに働く職員は、こんな願いを話しました。



いじめや差別は人とのつながりを切ってしまう。自分のことではないと思った時、知らぬ間に優位に立っていて、差別する側にいることに気づかない。そっとしておいたらいじめはなくなる？ 言うから差別はなくなる？ そうではないことを知ってほしい。家族や友だち、そして故郷を大切に思う心は皆同じだ。

だれだって、いじめられるのは怖いし一人ぼっちになるのは悲しい。だからといってだれかをいじめるのは卑怯ひきょうですね。まず自分を振り返り、みんなで考えてください。安心して本音を出し合い、認め合える素敵な「なかま」になるために、自分は何をしていますか？ できることは何ですか？



(2) 名張市人権センター

2004（平成16）年、名張市の人権施策推進のパートナーとして希央台きおうだいに設立されました。相談機能をはじめ人権問題に関わる調査・研究の推進、人権教育・人権啓発活動における地域活動の実施、リーダーシップをとれる人材の育成に向けての活動拠点です。名張市男女共同参画センター、名張市市民活動支援センター、名張市多文化共生センターと連携を図りながら活動をしています。

《相談機能》

専門相談員や弁護士が女性相談、男性相談に、人権擁護委員が人権相談に応じています。人権に関わる困難な問題で悩む人たちがいます。他人ごとではありません。そんな時に一人で抱え込まず誰かに相談することはとても大切です。そのことで解決に向かうことも多いのです。

《人権啓発や人材育成》

各種講座や研修会、映画鑑賞会、「ふれ愛コンサート」等を開催し、毎年約1000人以上の市民がこれらに参加しています。学んだことを家庭や職場で行動に移し、自分だけでなくまわりの人々の生活がより豊かになるためのつながりの場になることをめざしています。

名張市内に住む外国人は2022（令和4）年5月1日現在で1049人です。名張市人権センターでは毎年、市民との交流の集いやイベントを開催しています。多文化共生社会の実現に向けて地域での催しで「世界の屋台村」も実施しました。ブラジルやペルー、タンザニア、インドネシア、中国、韓国、タイなど世界各国の料理を販売し、食文化の違いを楽しみながら、市民との交流イベントを開催することも増えてきました。



地域の催し「世界の屋台村」の様子

イベントに出店しているタンザニアのTさんは結婚し1998（平成10）年から名張に住んでいます。名張市での暮らしについてこう話します。

名張に来て不安はありました。でも、日本語の先生や他の外国の人と友だちになり、勇気をもらいました。近所の人も親切にしてくれました。名張では、一人で住んでいるお年寄りがいますね。私の国では考えられないことです。



インドネシアのUさんは日本に1997（平成9）年に来て、2007（平成19）年から名張に住んでいます。



名張は自然がいっぱい。空気もおいしいです。普段の買い物も近くで済むし、店員さんも親切です。大阪や奈良、京都など、出かけるにも便利。もっとイベントなどがあるといいですね。

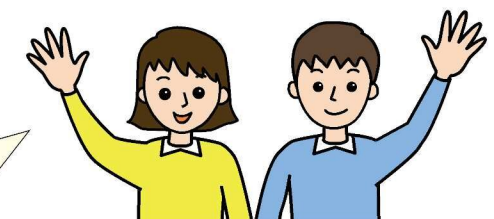
あなたは大切にされていますか？

みんなが大切にされていますか？

みんなと仲良くしていますか？

みんなが仲良くしていますか？

名張市がこれからも人権尊重のまちとして発展していくためには、市民の一人である「あなた」の考えや行動が大切です。自分自身を振り返ってみましょう。



多文化共生社会【→P81】